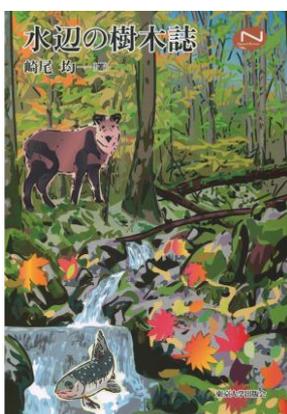


「水辺の樹木誌」出版

フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション 教授 崎尾均

東京大学出版会から「水辺の樹木誌」を出版しました。溪流，河川や湿地など陸域と水域の境に分布する水辺林は，生態学的に多様な機能を持つだけでなく多くの生態系サービスを提供してくれます。洪水や土砂移動など河川の自然攪乱によって形成された水辺林の地形・環境は多様で，多くの種類の樹木が分布しています。本書ではヤナギ類，サワグルミ，カツラ，シオジや外来樹種ハリエンジュなど水辺に分布する様々な樹木の生活史を扱っています。土石流，洪水，ハリケーン後の水辺林の更新に関しては，これまで知られていなかった新たな知見も掲載しました。そして，開発によって失われたり，人工林化によって劣化した水辺林の再生修復についても事例を取り上げました。農学部の学生が行なった佐渡島の話も入っています。本書は，造林技術者・治山技術者・県の研究機関，そして大学教員と，林業や森林に関する多様な仕事に従事してきたナチュラルリストの経験を綴った書籍でもあります。

詳細については，こちら (<http://www.utp.or.jp/book/b307539.html>) をご覧ください。



【体裁】 A 5 判・横組・ハードカバー・260ページ

【定価】 本体価格 4400円＋税